

牛久：学校周辺に見る自然

第35号 牛久二小

2012年11月2日発行

＜ 秋の動物たち ①チョウの仲間＞

久しぶりのこうしん更新です。今回は、牛久二小4年2組の皆さんとの「校庭の秋の生き物観察」（10/19に動物を、26日には植物のようすを観察しました。）のしょうかい紹介です。まずは、チョウの仲間から。



セイトカアワダチソウの花みつを吸う、モンシロチョウ。春から秋まで、5回くらい発生する。さなぎで越冬。

秋に目だつ黄色の花といえば、このセイトカアワダチソウでしょうが、そこに**モンシロチョウ**がやってきました。ストローを伸ばしてみつを吸っています。セイトカアワダチソウは花粉症かふんしょうの原因といわれたこともありますが、観察していると、チョウやハナバチが次々と訪れてはみつを吸っていきます。そして花たちは、花粉かふんを運んでもらっています。花粉症の原因となる花は、そのほとんどが、風に運ばれる軽くて小さな花粉をたくさん作る花のようです。とすると、セイトカアワダチソウが花粉症の原因とされるのはやはり「濡れ衣ぬれぎぬ」でしょう。ただし、たくさん咲いているところで茎をゆすって花粉をあびるようなことは避けましよう。それで花粉症になってしまう可能性はありますから。

ところでモンシロチョウについては3年生で観察しますが、春から秋まで年に5回くらい「さなぎ⇨成虫⇨卵⇨幼虫⇨さなぎ」をくり返すようです。寒くて乾燥かんそうする冬は、さなぎでやり過ごすのですね。チョウの仲間には、モンシロチョウやアゲハチョウのようにさなぎで越冬（えっとう）するものもいれば、多くのセセリチョウのように幼虫で越冬するもの、ミドリシジミのように卵で越冬するもの、そして多くはないけれど成虫で越冬するものも、ウラギンシジミやキタテハなどで知られています。



ヤマトシジミのオス（左）とツバメシジミのメス（右）。どちらも、幼虫で越冬する。

背の低い草花には、シジミチョウの仲間が来ていました。この仲間は種類によって越冬のしかたがさまざま、上のヤマトシジミ、ツバメシジミは幼虫で越冬します。



ビオトープの林のふちでは、翅(はね)の裏がまっ白にかがやいて輝いて見えるウラギンシジミが飛んでいました。小枝にとまって翅を開くと、メスであることが分かりました。参考に、牛久自然観察の森で撮ったオスの写真も載せておきます。ウラギンシジミは成虫のまま冬越しをすることで知られていますが、冬の間はまるで死んでしまったかのようにジッとして動きません。そのまま落ちて、本当に死んでしまうこともあるようです。

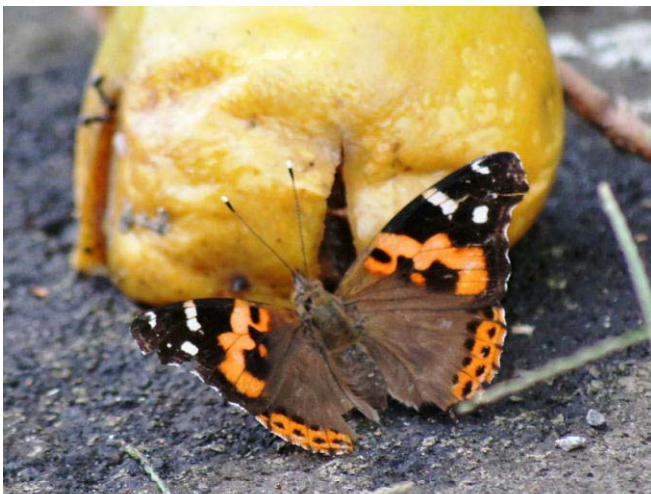
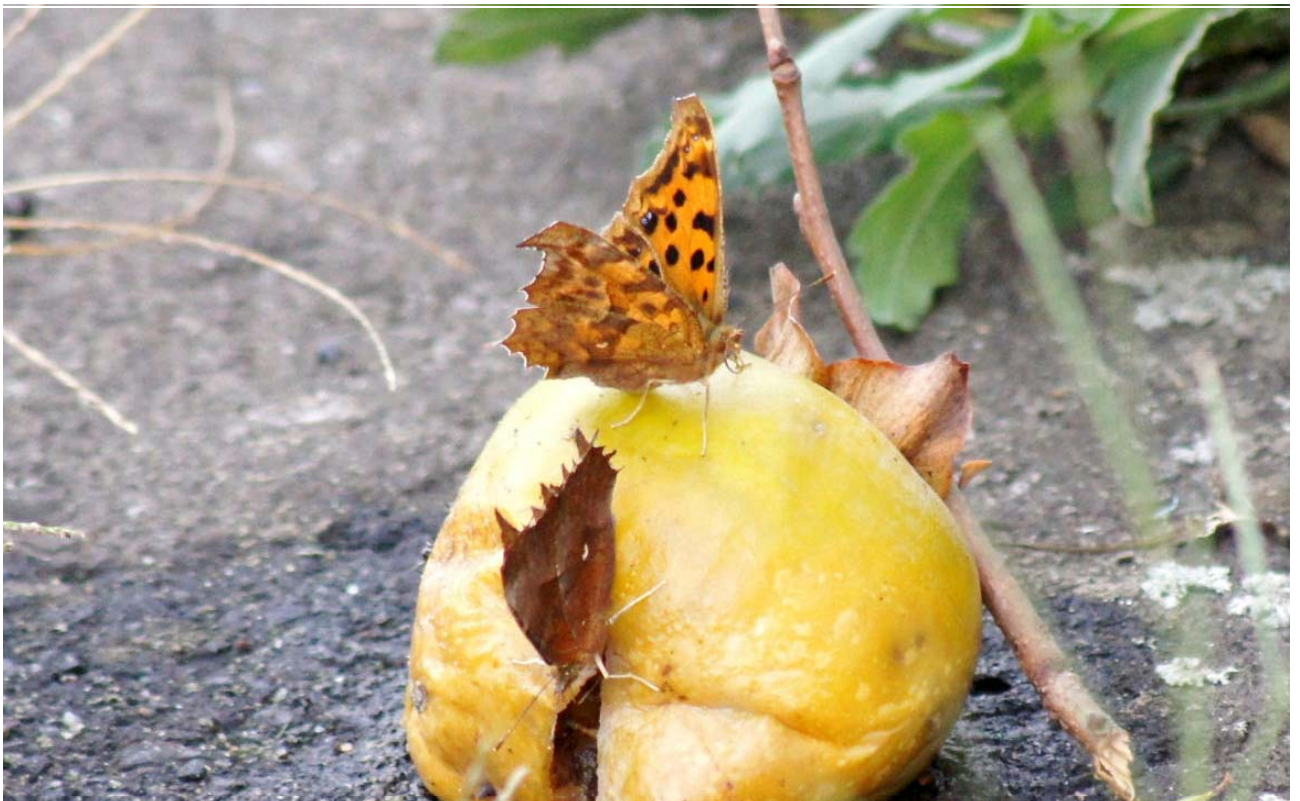
ウラギンシジミのオス（左上：2011. 6. 15牛久自然観察の森）とメス（右：牛久二小）。成虫で越冬する。

翅(はね)の裏が白銀色なので「裏銀シジミ」（左下：2011. 12. 21牛久自然観察の森）。



こちらは、タテハチョウ科のヒメジャノメ。同じくビオトープの林を飛んでいました。この科のチョウも冬越しのしかたはさまざま、ヒメジャノメの場合は幼虫で越冬します。もう、翅がボロボロですね。翅に眼のようなものがあるので「蛇の眼チョウ」ですが、天敵の鳥などをおどかす効果があるようです。小型なので「ヒメ(姫)」がつきますが、コジャノメ(小ジャノメ)という似たのもいて、ややこしい。

幼虫で越冬する、ヒメジャノメ。あしの数は？



熟柿の汁を吸うキタテハ(上)とアカタテハ(左)。どちらも成虫で越冬する。あしの数は？ 10/6 稲敷市。

ビオトープのまわりを素早く活発に飛びまわる、オレンジ色のやや大型のチョウがいました。

キタテハでした。なかなかとまってくれず、写真に撮れなかったので、私の家の近くの駐車場ちゅうしやじょうで、下に落ちた熟柿じゆくしの汁を吸っていたキタテハの写真を載せます。翅の表はオレンジ色が強く、裏も赤みを帯びた秋型です。似た仲間とは、翅の裏に白い「c」マークがあることで区別できます。

ビオトープ周辺では、似た仲間**アカタテハ**と**ツマグロヒョウモン**のオスも見かけました。アカタテハも写真をとれなかったので、先ほどと同じカキの実に来ていた写真をのせます。ところで、昆虫のあしの数が6本であることは、3年生以上のお友だちなら皆さん知っていると思いますが、これらタテハチョウ科のチョウでは、パッと見て4本しか見当たりません。ヒメジャノメもそうですね。

じつは、前あしが退化して短く折りたたまれているためで、つかんだり歩いたりはできないけど味を感じる事が出来るようで、花の中を探っている時などに確認できます。おもしろいですね。ツマグロヒョウモンは何度か登場していますが、もともと南方系なんぽうけいのチョウで、近年、北上を続けており、温暖化の影響えいきょうもあるのではないかと注目されています。



http://www.nacsj.or.jp/project/pdf/houkoku_ss2011.pdf

の4ページ参考。 【理科支援員 宮内】

ツマグロヒョウモンのオス。幼虫は、パンジーなどスミレの仲間の葉を食べる。